

酒とパソコンと少々ミルク

物忘れ対策を忘れてしまう

成光 昭男

最近、物忘れが以前にも増してひどくなってきました。菜園で作業しているときに、酪農宮崎の原稿のネタを思いつき、パソコンの前に座れば、野菜のことはすっかり忘れ、ハウスを閉め忘れて霜の害を受けることも数回、鍋を焦がすのは日常茶飯事です。

物忘れがひどいと落ち込むよりも、年相応になってきたと考えた方がよいと慰められることもあります。仕事関係で周囲の方にお迷惑をお掛けすることもあり、どうにかしたいものです。

そんな折、NHKの「あさイチ」で物忘れに効果的なアロマブレンドが紹介されました。鳥取大学医学部により開発されたブレンドで、かなり効果がありそうでした。

私は、こう言うものにはすぐに飛びつきます。早速、昼用、夜用を入手し、これで物忘れの悩みも軽減できると期待したのでした。



しかし、そこには大きな落とし穴があったのでした。

午前中にモーニングブレンドを2時間、就寝前にナイトブレンドを1時間使用するのですが、とくに、午前中のモーニングブレンドの使用をつい忘れてしまう。本当に困ったものです。

物忘れがひどくなってきているこの頃ですが、もちろん忘れないことも多いです。

本誌の平成24年3月号で、県畜産試験場の鍋西さんは、分娩間隔を短縮するためのヒントと

して、「発情発見率を高めることが、分娩間隔を短縮するためには近道」であることを指摘されています。皆様、覚えていらっしゃるでしょうか。

表1 繁殖関連データの比較(H21年度)

H21年度	都府県	県内
分娩後初回AI(日)	101	108
空胎日数(日)	170	186
実空胎日数(日)	69	78
AI回数(回)	2.4	2.4
発情回数(回)	4.3	4.7
発情発見効率(%)	56%	51%
受胎率(%)	38%	38%
妊娠率(%)	22%	20%

平成21年度のデータでは、受胎率に大きな差が無いにもかかわらず、発情発見効率は都府県に比べ県内の平均は低い状況でした。

その後の状況はどうかと、平成23年度のデータを確認してみると、状況はあまり変わっていませんでした。やはり発情発見効率の低さが目立っています。

発情発見効率を忘れてしまった方は、もう一度、平成24年3月号で確認してみましょう。

表2 繁殖関連データの比較(H23年度)

H23年度	都府県	県内
分娩後初回AI(日)	101	105
空胎日数(日)	173	189
実空胎日数(日)	72	84
AI回数(回)	2.5	2.4
発情回数(回)	4.4	5.0
発情発見効率(%)	56%	48%
受胎率(%)	38%	38%